

④ 平和主義と平和教育の在り方について

本資料は、令和3年6月14日熊本市議会第2回定例会の一般質問において、特に「平和主義と平和教育」について取り上げた部分を資料としてまとめたものです。より分かりやすくするために加筆修正をしております。

Q4-1 米国における平和主義(pacifism)について

Q4-2 事実をもって主体的に考えさせる平和教育について

Q4-3 本市独自の副教材等平和教育への独自の取組みについて

一般質問の最後に、平和主義と平和教育の問題を取り上げたいと思います。

平和と安全保障、これは言うまでもなく国家の問題であります。すべての市民が国民の一人として等しく考えるべき大切なことです。この議会におきましても、一般質問や意見書の討論等の中で、しばしば平和の問題や核兵器の問題が取り上げられております。これは大変意義のあることだと思っております。

そこで私も、議論を深めたいという思いから、今回「平和主義」というテーマを取り上げました。まずは、私の意見を申し上げた上で、平和教育の在り方について教育長にお尋ねしようと思っております。

さて「平和主義」——これは我が国の憲法を語る時の三原則のひとつです。現在、使用されている小学六年生の教科書には、次のように説明されております。

「戦争は、人の命をうばい、生活を破壊するだけでなく、心に大きな傷跡を残します。日本国憲法の前文には、平和へのちかいが書かれています。それは、二度と戦争をしないという国民の決意を示したものです。憲法の条文では、外国との争いごとを武力で解決しない、そのための戦力をもたないと、平和主義の考えを具体的に記しています。」

小学6年生「公民」(東京書籍)より

つまり、戦争の話に始まり、国民が戦場に駆り出され命を落とす、その理不尽さ、悲惨さを考えることで、平和の大切さを心に刻もうというものです。

この思い、あるいは考えに反対する日本人はおそらく一人もいないのではないのでしょうか。この平和主義に異論を唱えれば、それでは「あなたは戦争がしたいのか」ということになってしまいます。戦後 70 年以上にわたり、平和主義は、もはや反論の余地のない「絶対的な正しさ」として教えられてきたように思います。その結果、どうなったか。

平和を祈り、願う気持ち、あるいは戦争に関わる一切のものを排除したいと考えることが、そのまま平和を実現するための「手段」として受け止められるようになったのではないか、つまり「願い続けることで、やがて実現する」と思うようになったのではないか、私はそう考えております。

これは人間社会と比較をすると特別な考え方であることは明らかです。

私たちは安心して毎日を暮らすために、この世から争いごとや犯罪の全てが無くなってほしいと強く願っております。ところが、祈り願うだけでは世の犯罪は無くならないと、誰もが悟っています。そのために、網の目の様に法律が整備され、違反すれば罰せられ、トラブルがおきても公正に仲裁するシステムがあるということを理解しているからです。そればかりか、新手の犯罪が起きればその手口を学び、注意喚起をして未然防止に努めています。

一方、国と国がひしめく国際社会にはこうした強制力を伴う法体系はありません。悪い国を捕まえる警察のような機構もなければ、国を裁く仕組みも存在しません。そこは人間社会とは比べものにならないほど、厳しい世界です。

私は平和主義にこめられた思いを、日本人共通の思いとしてしっかりと受け止めながら、その一方で、「平和」や「戦争」に対する深い洞察や議論がいまこそ必要であると考えております。多くの方に是非とも考えていただきたいことが二つあります。

ひとつは、現在の平和が、祈りや願いではなく、多くの命がけの行為によって守られている、という事実です。

私が小学生の時には、自衛隊の存在は平和のさまたげだという話を先生から何度も聞かされました。国政においては、時の野党から「非武装中立論」が強く叫ばれておりました。武力攻撃に対して武力で抵抗するから戦争になる、武力を持たずに降伏することが平和の道だという考えで、当時は東西冷戦下にありま

したから、中立の立場を宣言すれば誰も攻めてこないというものでした。

そうした中、昭和 63 年 3 月に化学防護小隊という、化学兵器専門の部隊が北海道に創設されることになりました。すると、これに反対する運動が全国的に展開されます。「国際法で禁じられている毒ガスに対応する部隊がなぜ必要なのか」「毒ガス部隊反対」と叫んで、平和主義を掲げる大勢の人が駐屯地の前に詰めかけたのを覚えております。「例え条約で禁じられていても備えは必要だ」というのが自衛隊の立場ですから、理解を求め予定通りに部隊が新編され、やがて全国に編成されていきました。

それから 7 年後の平成 7 年 3 月 20 日午前 8 時、あのオウム真理教による地下鉄サリン事件が発生します。亡くなった方 14 名、負傷された方約 6,300 人。歴史に残る無差別テロです。化学防護隊の隊員たちはニュースを見ただけで、使用されたのは毒ガスのサリンと判断。これは自分達に出番がやってくると考え、事件発生から 30 分後には準備態勢に入っています。その後、東京都知事からの要請を受けて現場に急行。地下鉄構内において、サリンの除染作業にかかり、無事任務を完遂しております。ところが任務の終了報告を終え、帰ろうとする小隊長が、地下鉄の駅長さんに呼び止められます。「駅構内の安全宣言をしてくれないか」というお願いでした。これは実は与えられた任務には無かったのですが、彼はこれをすぐに承諾をして、部下二人を連れて再び構内にもどります。小隊長は現場に着くと、かぶっている自分の防護マスクを自ら外し、自分の「目」を部下に確認させます。もしサリンが残っていたら、「縮瞳」と呼ばれる症状によって、瞳孔が縮むからです。部下からの「瞳孔異常なし」の声を確認して、彼らは再び地上にもどり、駅長さんに結果報告をして帰隊しております。

東日本大震災においては原子力発電所の放水作業を実施し、4 年前には画図町下無田で発見された 250kg 焼夷弾の不発弾処理を行いました。そしてもちろん、我が国の領空、領海では様々な緊張が続いております。航空自衛隊が行ったスクランブル発進は、直近 5 年間で平均すると年間 1,000 回に及び、尖閣諸島周辺では過去最長となる中国海警局の船に対する海上保安庁の警備活動が今も続けられております。

地下鉄の構内、原子力発電所、不発弾そして空も海も、現場はまさに命をかけた戦場です。危険に身をさらして任務にあたる人たちがあって初めて守られる平和があることに目を向けていただきたいと思います。

そして、考えていただきたいもうひとつは、「平和」には様々な形があるということ、平和の在り方についても深く議論をしていただきたいということです。

現在、中国の自治区となっている内モンゴル、ウイグル、チベットの3か所はいずれも大戦前までは独立した国家あるいはその一部として存在しておりました。中国に組み込まれる時には、国と国の戦争と呼べるような戦いは起きていません。圧倒的な軍事力の前に、穏やかに緩やかに時間をかけて民族の自治権が奪われ、国が無くなってしまいました。

内モンゴルでは今年から言葉はモンゴル語から中国語に変わり、ウイグルとチベットでは、民族同士の結婚が制限され、漢民族との結婚には奨励金が出されています。やがて民族としての言葉も文化も歴史も絶えようとしています。イギリスと一国二制度を条件に返還された香港でも、同じようなことが今起きようとしています。

「奴隷のように鎖につながれた平和なんか何の意味もない。それならば命を懸けて戦おう。」アメリカの独立戦争を指導したパトリック・ヘンリーの言葉が私は胸に迫ります。戦後、80を超える独立戦争が歴史に刻まれています。こうした国にとっては、独立戦争は平和をつかみ取るための戦いであり、戦争と平和は対極にあるものではなく、一体のものであると認識されています。

いずれにしても、我が国の平和主義という理念を確認した上で、世界の歴史を見渡し、議論を深めていくことが求められているように思います。

教育長に、三点お尋ね致します。

Q4-1:(一つ目)平和主義の英訳を調べると pacifism という言葉が出てきます。これは米国においてどのようにとらえられ、教育等ではどのように言及されているのでしょうか。

Q4-2:(二つ目)現在の平和がどのようにして守られているか、あるいは多様な平和の形があること等、事実をもって主体的に考えさせるような平和教育についてどう考えておられますか。

Q4-3:(三つ目)「平和教育において、現在使用している教科書だけでなく副教材のようなものを用意する等熊本市独自の取組みはできないでしょうか。

以上、教育長、お願い致します。

***** [A4-1、A4-2、A4-3 教育長 答弁]*****

(1) 米国における平和主義 (Pacifism) について

平和主義にも様々な考え方があり、戦争や暴力はいかなる場合にも許されないとする絶対平和主義 (いわゆる pacifism) の考えから、自由や正義が守られている状態を平和ととらえ、そのための戦争を肯定する考えまで幅広い。米国においても同様であるが、独立戦争に勝利し建国したという歴史を踏まえ、一定の条件での戦争はやむを得ないと考える人が多いのではないかと思われる。

(2) 事実をもって主体的に考える平和教育の在り方

また、日本での教え方としては、学習指導要領に基づき、「大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる」こと、「日本国憲法の平和主義について理解を深め、我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせる」こと、「戦争を防止し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育てる」ことなどについて、指導することとしている。

中学3年生の社会科の教科書では、世界で地域紛争やテロが起きていることや、自衛隊も参加した国連の平和維持活動 (PKO) や民間の非政府組織 (NGO) の活動などを取り上げている。そのうえで、「これからの国際社会で日本が果たすべき役割について、自分の考えを説明しましょう」といかけ考えさせている。

また、北方領土や竹島の領土問題や尖閣諸島周辺の領海・領空の警備を取り上げ、「地理や歴史での学習を踏まえて、それぞれの地域がかかえる問題の解決策を考えましょう」と問いかけている。加えて、例年、全小学校が長崎へ、一部の中学校は広島へ修学旅行に行っている。その事前学習などで、児童生徒が調べ、考え、まとめたものを発信し、他の児童生徒と共有したり、対話したりするなどの活動を行っている。

(3) 本市独自の平和教育への取組

現在、本市では、児童生徒が一人一台のタブレット端末を活用し、容易に資料等を手に入れることができることもあり、市独自の副教材を導入しなくても、平和について考える材料は豊富にあると考える。

また、市内に自衛隊の駐屯地が複数あることは熊本市の特徴である。例えば、地域学習の一環として、これらの施設を訪問したり、話を聴いたりすることは意義のあることではないかと考える。

Pacifism という言葉は、防衛省自衛隊で永年通訳を務めていた友人でさえ、「一度も聞いたことがない」ということでしたので、教育長にお尋ね致しました。米国においては、平和について幅広い捉え方がある中で「絶対平和主義」と表現していただいたことは、言葉を理解する上で大変参考になりました。

また教育の場においては、戦争、憲法、平和主義のみならず安全、防衛、国際貢献の分野にまで触れて、指導されていると伺い安堵した次第です。

事実をもって主体的に考えさせる教育については「国際社会において日本が果たす役割」や領土問題の経緯、長崎や広島への修学旅行における事前学習等様々なテーマで取り組まれていることが理解できました。

その上で熊本市独自の副教材のご提案をした訳ですが、タブレットを活用した自主学習とともに地域学習の一環として自衛隊の駐屯地を例に挙げていただいたことは大変嬉しく思います。健軍駐屯地、北熊本駐屯地いずれにも素晴らしい資料館が整備されております。是非学習の場として利用していただきたいと思います。

私の九ヶ月ぶりの一般質問は後半、平和主義をテーマに進めさせていただきました。

戦後 70 年以上に亘り、憲法 9 条、安全保障、自衛隊等についての議論はほとんど深まっておりません。

私が最も危惧しているのは、我が国を取り巻く環境はもちろんですが、戦争の様相が急速に変化を遂げていることです。

今年の 5 月 21 日停戦に入ったイスラエル・ガザ紛争において、ハマスは音速の 1.5 倍のロケット弾 1,050 発撃ち込み、イスラエルは音速の 2.2 倍のミサイルで迎え撃ち、1,030 発を打ち落としています。とんでもなく高度な技術の応酬です。

新聞報道によれば、今年の秋に陸上自衛隊としては東西冷戦時以来、最大の演習が計画されております。新聞記事には台湾有事や尖閣有事のシナリオが想定されていると書かれておりましたが、内容は一切公開されておられません。

そこに想定されているのは正規戦、非正規戦、サイバー戦、情報戦などを組み合わせたハイブリッド戦と言われるものです。これは防衛白書にも記述されています。

最大の特色は有事と平時の区別がないことです。

例えば 2014 年のクリミア半島での紛争においては、ロシア軍がウクライナ軍の電波を封鎖し、偽の命令指示をウクライナ兵士の携帯電話に送り込み、誘い出

された部隊にミサイルを集中して、これを撃滅しています。

銀行や証券取引所における突然のシステムダウン、スマホメールの突然の混乱、あるいは正体不明の感染症など、グレーゾーンの中で、平和の仮面をかぶって静かに訪れる戦争。あるいは感覚が育っていない国にとっては戦争がいつ始まったかどうかも分からない状態。これがハイブリッド戦です。

平和の在り方について様々あることは先ほどの教育長のご答弁にもありました。平和が尊くかけがえのないものであることは言うまでもないことです。

しかし、内モンゴルやウイグル、チベットのように、言葉や文化、そして民族の誇りまで奪われて「これが私たちの平和だよ」と未来の子どもたちに語れるでしょうか。

それが試される時代がもう来ているということ、多くの方に考えていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

(④了)